

－ 就職活動を（これから）する、している子供を持つ保護者の皆様へ －

あなたのお子様が無事に就職活動を乗り越えて社会人としての第一歩を踏み出すためには、保護者の皆様を始めとする数多くのサポートが必要不可欠です。就職活動に挑む高校生に対して、どのようなマインドで接するべきかをお伝えいたします。

〔就職活動生を持つ保護者の心得〕

- ① 過保護になり過ぎない
 お子様の事が心配になる気持ちはわかりますが、過保護になり過ぎることは厳禁です。選考スケジュールの管理、企業や学校への連絡を保護者が代わりにする等はしないことです。今後、自立して社会人となっていく中で苦勞をすることで成長します。なるべくお子様の自主性を重んじるようにしましょう。
- ② 意思決定に関わり過ぎない
 進路決定のアドバイスはしてあげるべきですが、最終的な意思決定に保護者が踏み込むのは厳禁です。意思決定まで踏み込むと入社後のミスマッチが起こりやすく、早期退職にまで発展しかねません。お子様自身が自分の進路選択に責任を持ち、最終的な意思決定の場を設けることが必要です。本人が納得した上で入社するからこそ、仕事が辛い場面でも頑張れるものです。
- ③ 無関心になり過ぎない
 過保護も問題ですが、その逆の無関心も問題です。お子様に関心を持った上で敢えて任せている「放任」と、全く関心を持たず、ほったらかしにしている「放置」とは異なります。就職活動において保護者は常に「放任」のスタンスでいなければなりません。「親がしっかり見てくれている！」という様子が伝わればお子様は安心して困難に立ち向かうことができるのです。
- ④ 自分世代の考え方・価値観を押し付けない
 現在の就職活動は保護者様が経験されたものとは全く異なるので、当時の常識は通用しません。間違った価値観をお子様押し付けてしまえば本来うまくいくはずのものも、うまくいかなくなる可能性があります。また、保護者の価値観がお子様の意思決定に入り込んでしまうと彼らのストレスとなり、判断を鈍らせることにもつながります。アドバイスをする以上はしっかりと最新動向を調べた上で、間違いないように伝えることを意識してください。
- ⑤ 悩んでいる時は徹底して相談役に徹する。
 ここでのポイントは過度に心配性になりすぎないことです。お子様の自主性を育むためにもここぞという場面で相談に乗ってあげることが大切です。お子様が悩んでいることを整理して自分で解決に向かえるよう手助けをすることです。
- ⑥ 親目線から見た長所・強みを教えてあげる。
 お子様の性格を最も理解しているのは間違いなく保護者です。5つ長所を伝えて、1つ短所を伝えるくらいがちょうどいいと思います。

お子様の自主性を重んじながらも、彼らが答えを見つけるための手助けをしてあげてください。

参考：理想的な仕事調査（世論調査）結果

理想的な仕事

令和3年9月
内閣府政府広報室

(上位5項目)

- ・収入が安定している仕事 61.3%
- ・自分にとって楽しい仕事 52.3%
- ・私生活とバランスがとれる仕事 51.2%
- ・自分の専門知識や能力がいかせる仕事 35.6%
- ・健康を損なう心配がない仕事 33.7%

(複数回答)

